

E F P－R C

操 作 補 足 マ ニ ュ ア ル

第 1 版

株式会社 慧星電子システム

第1版 2008年 12月 発行

Copyright© 2008- 株式会社 彗星電子システム

○ 本説明書についてのお問い合わせは、下記までお願い致します。なお、お問い合わせに際してはE-mail、FAXにて受け付けております。

『お問い合わせ先』

〒538-0053 大阪市鶴見区鶴見6丁目5番24号

株式会社 彗星電子システム

FAX (06)6913-4534

E-mail:support@suissei.co.jp

HP :http://www.suissei.co.jp/

目 次

概要	4
1. EFP-R Cターゲット接続時の説明.....	5
1. 1 ターゲット接続の種類.....	5
1. 2 ターゲットへの接続例.....	6
1. 3 ターゲット参考回路.....	7
2. 外部制御信号.....	8
2. 1 外部制御信号の動作.....	8
2. 2 外部制御信号のシーケンス	8
3. コンパクトフラッシュ(C F)の設定	1 0
3. 1 コンパクトフラッシュのフォーマット.....	1 0
3. 2 EFP-R CによるC Fカードのイニシャル.....	1 0
3. 3 C Fカードへのファイル転送.....	1 0
4. 書込み操作概要.....	1 1
4. 1 電源投入メニューからのキー操作	1 1
4. 2 書込み実行操作	1 4
5. 各マイクロコンピュータについての注意点.....	1 5
5. 1 フラッシュメモリー (ND、D i n o r 型).....	1 5
5. 2 Q z R O M.....	1 5
6. サンプルスクリプト.....	1 6
6. 1 M1 6 C / 6 2 P (M30624FGP) の場合.....	1 6
6. 2 Q z R O M (M37544G2A) の場合	1 7
6. 3 R 8 C / T i n y (R5F212B) の場合	1 7
7. トラブルシューティング	1 8

概要

本資料ではE F P－R Cの操作に関して、以下の7項目について補足説明を行います。

1. ターゲット接続の種類

ターゲット接続の種類には以下の6種類が有り、それぞれについて接続方法などを説明します。

- ① Cnvss : VIH タイプ標準的なフラッシュ ROM マイコン [t=1, 2, 3, 8]
- ② Cnvss : 5V タイプ 8Bit 系フラッシュ ROM マイコン [t=8, 18] 【要 Vpp 変換】
- ③ Cnvss : 12V Nor 型フラッシュ ROM マイコン (3 線式通信) [t=6, 7]
- ④ R8C/10-13 系 フラッシュ ROM マイコン (クロック同期式) [t=4]
- ⑤ R8C/14-2x 系フラッシュ ROM マイコン (特殊 UART モード) [t=5]
- ⑥ Cnvss : 7.9V 4, 8Bit 系 QzROM マイコン (3 線式通信) [t=9-17, 19--] 【要 Vpp 変換】

2. 外部制御信号

E F P－R Cを外部より制御する方法を説明します。

3. コンパクトフラッシュ (C F) の設定

最初にC Fを使用される場合は、パソコン側でフォーマットする必要がありますので、C Fの設定方法を説明します。(出荷時添付のC Fの場合は不要です。)

4. 書込み操作概要

E F P－R Cの操作について説明します。

5. 各マイクロコンピュータ (MC U) についての注意点

フラッシュROMにはブロックやIDコードがあり、またQ z ROMにはプロテクトビットや特殊設定領域がありますので、注意事項を説明します。

6. サンプルスクリプト

M16C／62P、Q z ROM、R8C／T i n yのサンプルスクリプトを掲載します。

7. トラブルシューティング

E F P－R Cで発生するエラーの一部と、その対策を掲載します。

1. EFP-RC ターゲット接続時の説明

この章では EFP-RC と各 MCU との接続方法について説明します。

1. 1 ターゲット接続の種類

Cnvss→	① VIH	② 5V(*1)	③ 12V(Nor)	④ R8C/10-13	⑤ R8C/1 線式	⑥ QzROM(*2)
EFP-RC コネクター	T=1, 2, 3, 8	T=8, 18	T=6, 7	T=4	T=5	T=9-17, 24-30
1, 16: GND	Vss	Vss	Vss	Vss	Vss	Vss
3: T_VPP		Cnvss(5V)	Cnvss(12V)			Cnvss(7.9V)
4: T_VDD	Vcc	Vcc	Vcc	Vcc	Vcc	Vcc
8: T_Pgmoe	Cnvss	Pxx(*3)	Pxx(*3)			Pxx(*3)
9: T_Sclk	Sclk	Sclk	Sclk	Cnvss		Sclk
10: T_Txd	Rxd	Rxd	SDA	Rxd	Mode	SDA
11: T_Rxd	Txd	Txd		Txd		
12: T_Busy	Busy	Busy	Busy	Mode		
14: T_Reset	Reset	Reset	Reset	Reset	Reset	Reset
MCU 品種	M16/Tiny M16/3x M16C/6x, 8x M32C/8x M380xFxL M38DxF	M385xxF M3754xF	M3803xF M3775xF	R5F2111xx ～ R5F2113xx	R5F2114x ～ R5F211Bx R5F212xx	M34283G M34508G M3754xG M38xxxG

(*1) : 要 EFXQZP-01-C(5Vpp) または同等回路

(*2) : 要 EFXQZP-01-C(7.9Vpp)

(*3) : 各マイコンマニュアルで確認ください

- Cnvss は、1k～5.1k でプルダウン、他はプルアップ (Vss を除く) としてください。
- T_Reset は、オープンコレクタで、ユーザリセットとは OR 接続 (ワイアード OR 等) にしてください。
- 上記端子で通常使用がマイコンに対し入力の場合は、信号の衝突が起きない様にしてください。

上記は各マイコンに共通な信号です。マイコンにより上記以外にも設定の必要な端子があります。詳細は、ルネサス_マイコンマニュアルをご参照ください。

また弊社下記ウェブサイトの Zip ファイルをダウンロードして下さい。

【http://www.suisei.co.jp/download/efps2/efps2v_down.htm#EFP-S2V%20Product%20CD データ】

【http://www.suisei.co.jp/download/efps2/efps2v_down_e.htm#Download%20of%20the%20data%20of%20CD】

Supplement ホルダー内の各マイコン補足資料も併用してください。

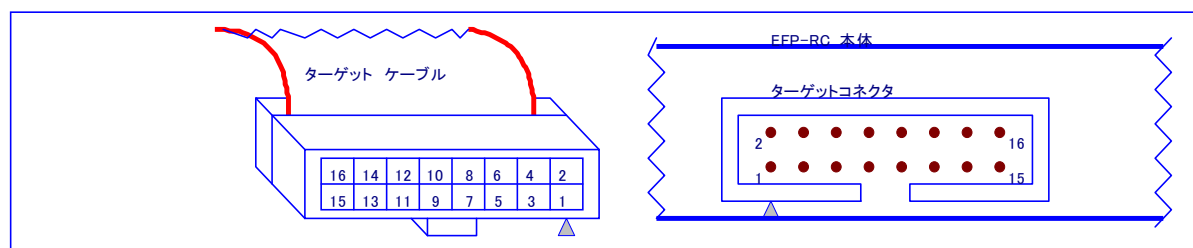


図 1.1 ターゲットコネクタ ピン配置

1. 2 ターゲットへの接続例

マイコンマニュアルも合わせて参照ください。

① Cnvss: VIH 系マイコンの接続方式

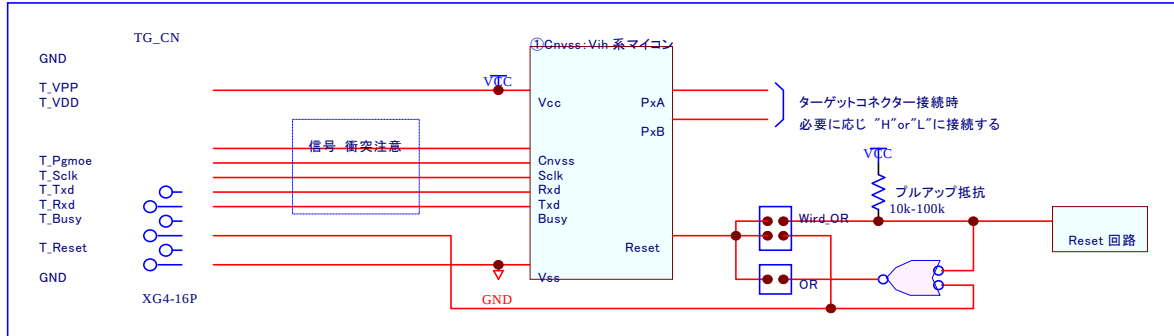


図 1.2-1

②③⑥ Cnvss: Vpp 系マイコンの接続方式

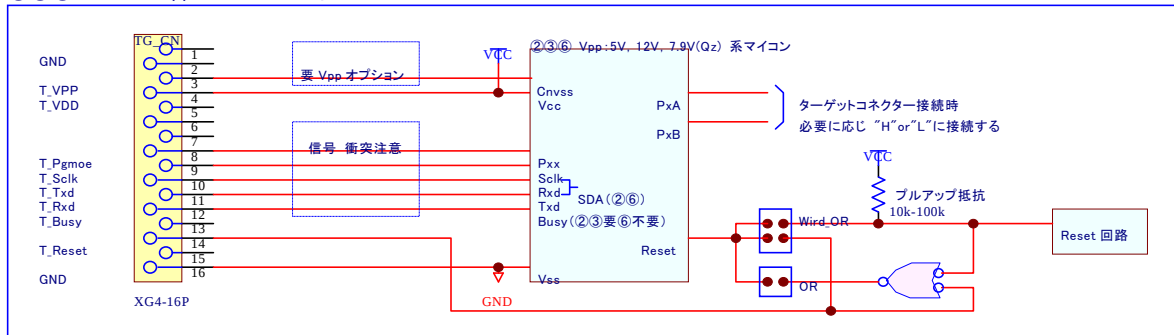


図 1.2-2

④ R8C/10-13 系マイコン接続方式

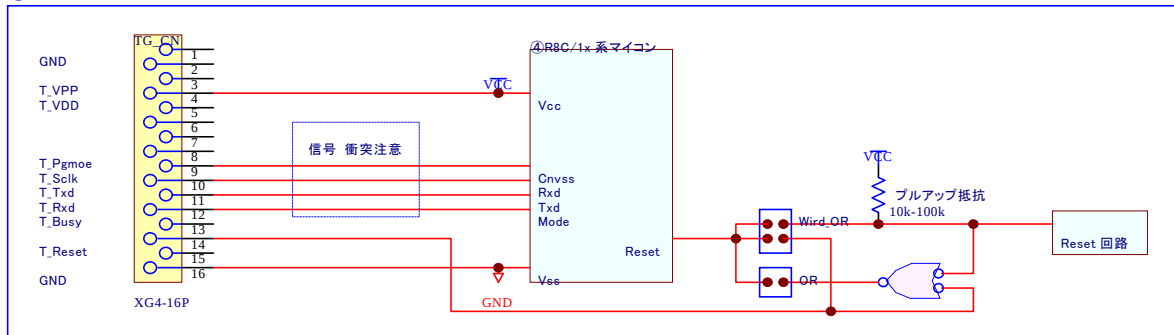


図 1.2-3

⑤ R8C/1 線式マイコンの接続方式

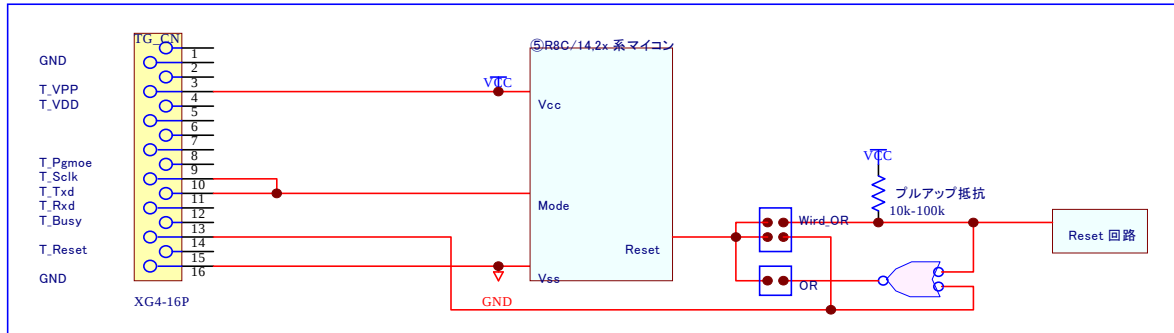


図 1.2-4

1.3 ターゲット参考回路

EFP-RC内部 ターゲットI/F部

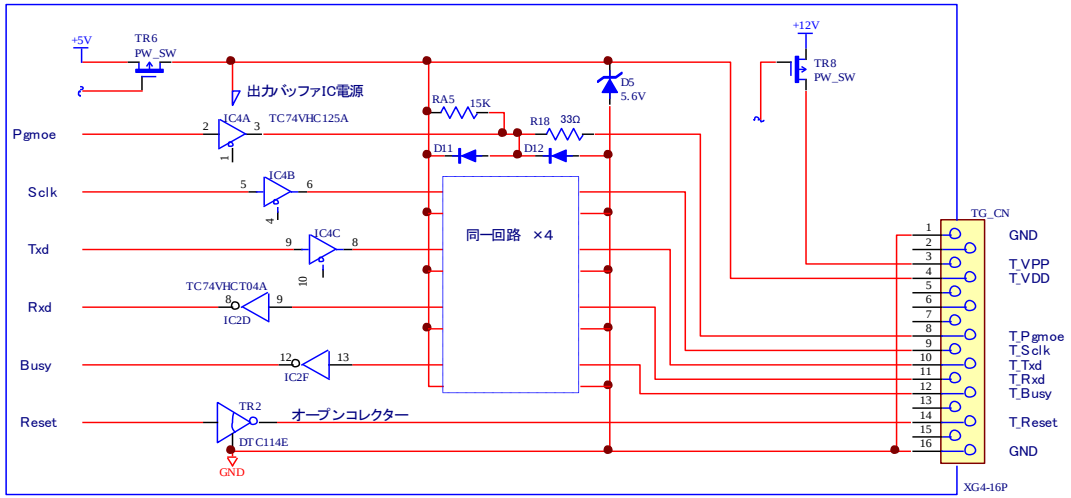


図 1.3-1

抵抗による衝突防止（抵抗挿入で影響がない場合）

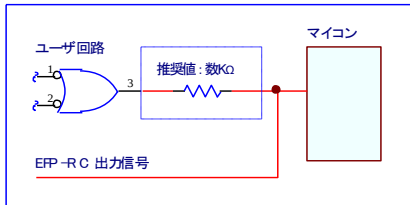


図 1.3-2

ジャンパー-SWIによる切替

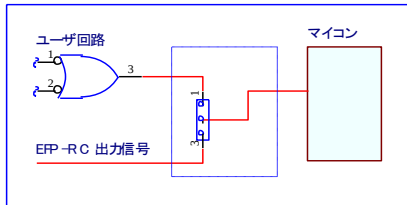


図 1.3-3

アナログSWIによる切替

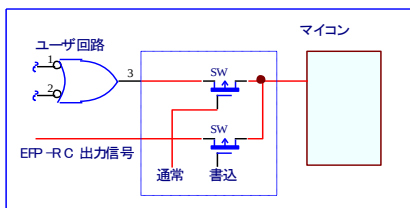


図 1.3-4

3stバッファICによる切替

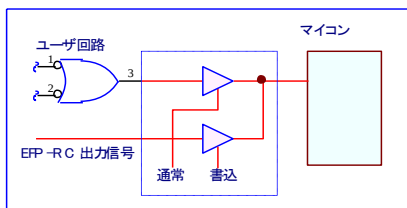


図 1.3-5

EFP-RCで準備されていない設定信号の処理例題

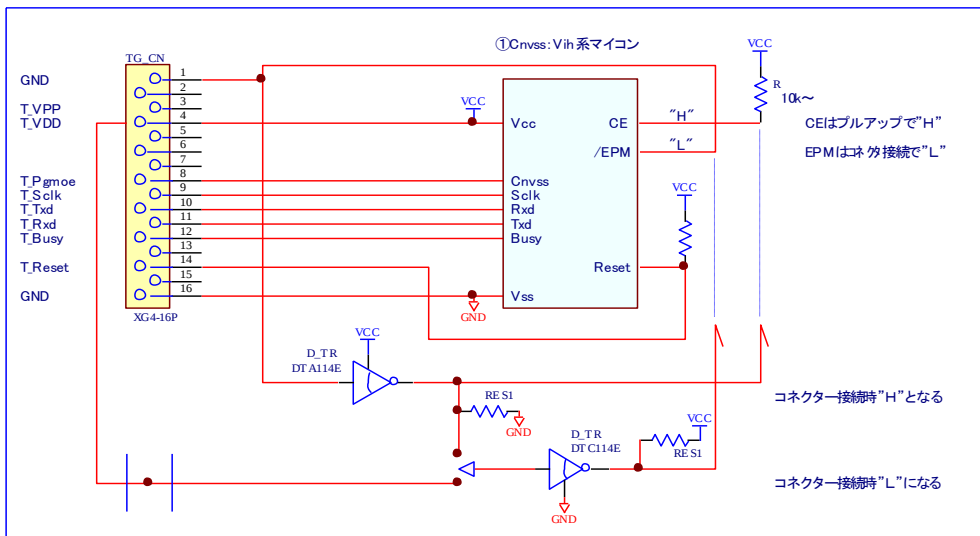


図 1.3-6

2. 外部制御信号

EFP-RCには、ターゲットコネクタ上に「Sキー」、「実行中表示」、「エラー表示」の各信号があり、これらの信号を使用することで外部からの制御で書込み動作を行えます。

2. 1 外部制御信号の動作

EFP-RCのターゲット接続コネクタで、EFP-S2等で未使用となっている端子(6,7,13pin)には以下の信号が追加されています。

6pin: エラー信号(Error) スクリプト実行中にエラーとなったとき”L”になります。「Sキー押し」または終了タイマーで復旧します。

7pin: 実行中信号(Exec) スクリプト実行中は”L”になり、終了すると”H”になります。

8pin: 外部スタート(Sキー) EFP-RCパネルの”Sキー”と同じ機能で外部からスクリプトを実行させます。

- ・外部スタートを使用する場合は、スクリプト.PBT ファイルをショートカット登録した状態で、電源投入後一度”Sキー”を押して、スクリプト実行可能状態にしておいてください。

2. 2 外部制御信号のシーケンス

電源投入後「Sキー」または「Start」を1度ONした後のタイムチャートを図2-1に示します。

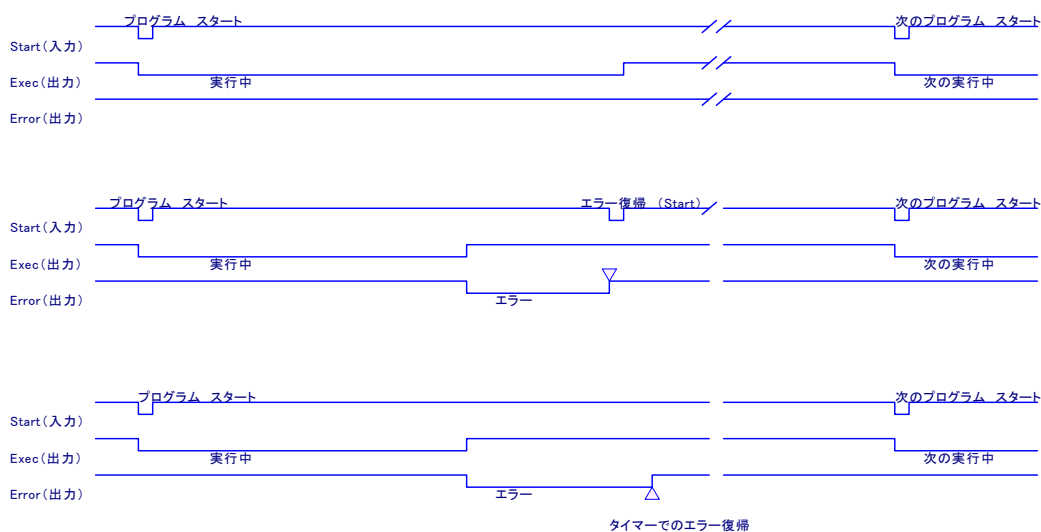


図 2-1

外部操作時の接続例を図 2-2 に示します。

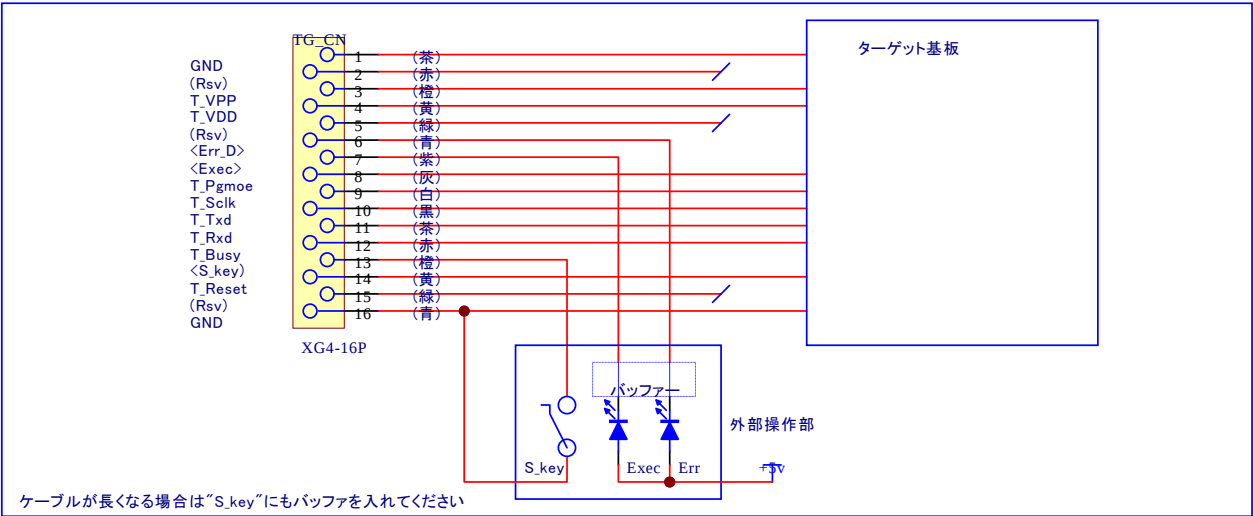


図 2-2

3. コンパクトフラッシュの設定

この章では EFP-RC に使用する、CF カードのフォーマット方法、デフォルトホルダーの作成、CF カードへのデータ転送方法を説明します。

3.1 コンパクトフラッシュのフォーマット

コンパクトフラッシュ (CF) を初めて使用される場合や、ご使用されていた CF を初期化する場合は、パソコン側の CF_R/W (リーダライタ) に挿入し FAT16 形式でフォーマットしてください。他のフォーマットでは、動作しません。またフォーマットの属性によっては動作しない場合があります。

3.2 EFP-RC による CF カードのイニシャル

フォーマットされた CF カードは、一度 EFP-RC に挿入し、デフォルトホルダー作成等の初期化を行ってください。最初に初期化しない場合は正常に動作しない場合があります。初期化により "Down_load", "MCU_Type", "USER" 等のホルダーが作成されます。

3.3 CF カードへのファイル転送

書込みをされる場合は CF カードに以下の①と②、2 種類のファイルを③もしくは④の方法で同一ホルダーに転送してください。

- ① “スクリプトファイル. PBT” (実行コマンドを記述したファイル、拡張子. PBT/テキストエディタで作成)
操作マニュアルスクリプトファイル項の各コマンド説明を参照ください。
- ② “データファイル. HXW” (書込み用、拡張子. HXW/専用ソフト RC. exe で作成)
インテルヘキサカモトローラ S フォーマットで記述された HEX データファイルをコントロールソフト「RC. EXE」で HXW に変換してください。
*注意：データ領域のサイズは、スクリプトのサイズより等しいか広くなくてはなりません。
*HXW 作成時は、書込みモードに応じた設定で作成しなくてはなりません。
0:1Byte, 1:4Byte, 2:8Byte の形式があります。(4, 8Byte はマッピング付の QzROM 用)

参考例：HXW の先頭には、テキスト文で以下の様な内容が記述されています。

EFP-RC HXW file.	: ファイルの名称
0000E000, 000FFFFF	: データ領域の範囲 “0000E000” 番地から “000FFFFF” 番地のデータ
0	: ファイル形式 0: 1Byte 形式
B000	: データのチェックサム値

- ③ USB で転送 (EFP-RC とパソコンを USB ケーブルで接続して)
EFP-RC 上で任意の転送対象のホルダー (user 等) に入った状態でコントロールソフト「RC. EXE」を使用して転送してください。
 - ④ パソコン側リーダライタを使用して転送
CF をパソコン側の R/W に挿入しパソコン上から直接対象ホルダーに転送してください。
- ・コンパクトフラッシュには、“Down_load”, “MCU_Type”, “USER” ホルダーが用意されていますので、これらのホルダーか新たにホルダーを作成 (CF_RW が必要) して転送してください。
 - ・専用ソフト RC. exe で転送する場合は、EFP-RC 側で指定ホルダーを選んだ状態で転送してください (コンパクトフラッシュを取り外し、パソコンから CF_RW 上で使用する場合は必要ありません)。

4. 書込み操作概要

この章ではEFP-RCの各キー毎の機能説明をします。

4.1 電源投入からのキー操作

①電源投入時は以下の画面が表示されます。

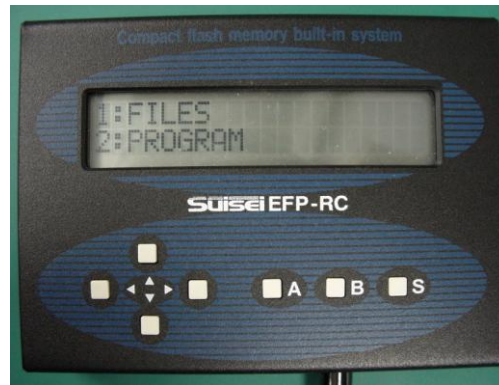


図 5.1 初期画面

- ② ↑ ↓ : 上下ボタンを押すことにより、表示メニューの選択を行います。
- ③ → : メニューやホルダーをオープンします。
- ④ ← : EFP-RC バージョン表示と、CF 空き容量表示(図 5.2)
 - S : PBT 実行回数 (上段表示), エラー回数 (下段表示) (図 5.3)
 - A : カウンタークリアモード (B 中止)
 - S : 各カウンタークリアー



図 5.2 バージョン表示

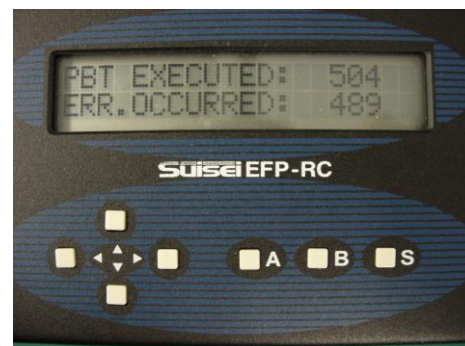


図 5.3 PBT 実行回数

- ⑤ **A** : MCU グループ名表示 (**B** or 10 秒でメニューに戻る) (図 5.4)
 — **↓** **↑** : MCU 選択
 — **S** : 設定 (次電源投入時表示)

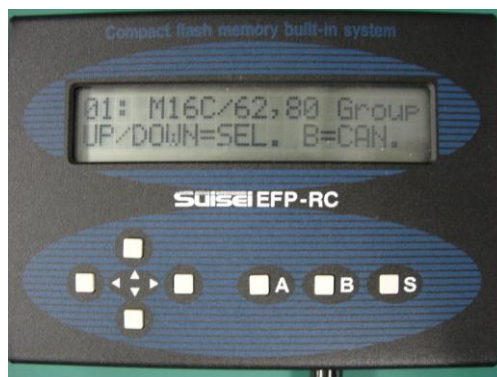


図 5.4 MCU グループ名表示

- ⑥ **B** : ユーザメモリー設定モード(図 5.5)
 複数のユーザで使用する場合等のユーザ設定が行えます。



図 5.5 ユーザメモリー設定モード

- ⑦ **S** : 登録スクリプト実行モード(図 5.6)
 — **↓** **↑** : 登録スクリプト選択 (先頭または*マークのスクリプトが優先)
 — **S** : 登録スクリプト実行



図 5.6 登録スクリプト実行モード

- ⑧ $\boxed{\uparrow} + \boxed{A} + \boxed{B} + \boxed{S}$: メニューファイル選択モード
 $-\boxed{\downarrow} \boxed{\uparrow}$: メニューの英語・カタカナ切り替えができます。
- ⑨ $\boxed{\uparrow} + \boxed{S}$: コマンド実行終了時タイマー ($\boxed{\uparrow} \boxed{\downarrow}$ で変更, $\boxed{B}$ で中断) (図 5.7)
 $-\boxed{S}$: インターバルタイマー ($\boxed{\uparrow} \boxed{\downarrow}$ で変更, $\boxed{B}$ で中断) (図 5.8)
 $-\boxed{S}$: 設定完了

インターバルタイマーを Non や Short に設定しますと、コマンド実行後のステータス確認画面の表示時間が短縮されますので、スクリプトの実行時間を短縮できます。

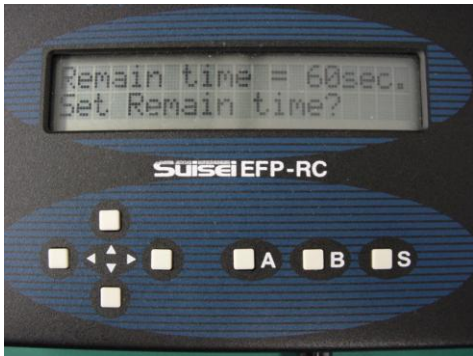


図 5.7 コマンド実行終了時タイマー

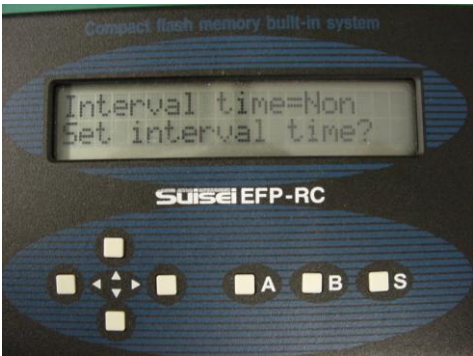


図 5.8 インターバルタイマー

⑩ メニュー以外でのキー操作

	ホルダー選択時	ファイル選択時
$\boxed{\uparrow} \boxed{\downarrow}$	表示ホルダーやファイルを選択	
$\boxed{\leftarrow}$	上位ホルダーに戻る	
$\boxed{\rightarrow}$	ホルダーオープン、内容表示	(機能せず)
$\boxed{A}$	ホルダーやファイルの消去モードになる	
$\boxed{B}$	ホルダーやファイルのプロパティ表示を表示	
$\boxed{S}$	(機能せず)	・ PBT のとき実行動作選択モードになる ・ HXW のときチェックサム表示か編集の選択モードになる ・ FXW のときファームウェアのバージョン表示を行いバージョンアップかチェックサム表示の選択モードになる ・ その他のファイルはダンプ表示となる
$\boxed{\rightarrow} + \boxed{S}$		・ レポートファイル作成 (PBT ファイルを選択の場合)
$\boxed{\rightarrow} + \boxed{A}$		・ レポートファイル削除 (そのホルダー内全てを削除)

詳細は操作マニュアルの電源投入時のメニューおよび、メニュー時以外のキー操作項を参照ください。

4. 2 書き込み実行操作

① スクリプトの実行（ファイル選択による書き込み等）

- ・前項のファイル操作で HXW やスクリプトが保存されたホルダーに入り、必要な” スクリプト．PBT” ファイルを $\uparrow$ $\downarrow$ キーで選択し $\boxed{S}$ — $\boxed{S}$ キーと押すとスクリプトを実行します。（図 5.9）

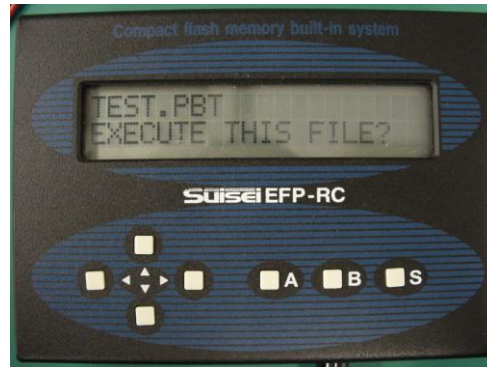


図 5.9 スクリプト実行確認画面

② スクリプトのショートカット登録と実行

- ・前項の操作で” スクリプト．PBT” ファイルを $\uparrow$ $\downarrow$ キーで選択し $\boxed{S}$, $\boxed{A}$, $\boxed{S}$ キーと押すとショートカットが登録されます。（図 5.10）
- ・次の電源投入時のメニュー表示で $\boxed{S}$ キーを押すとショートカット登録された” スクリプト．PBT” ファイルが表示（Max30）されます。（図 5.11）
- ・いずれかの” スクリプト．PBT” ファイルを選択し $\boxed{S}$ キーを押すとスクリプトを実行します。

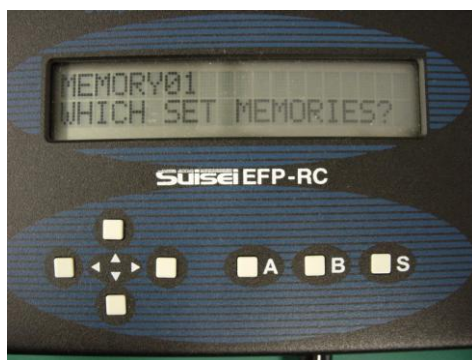


図 5.10 ショートカット登録確認画面

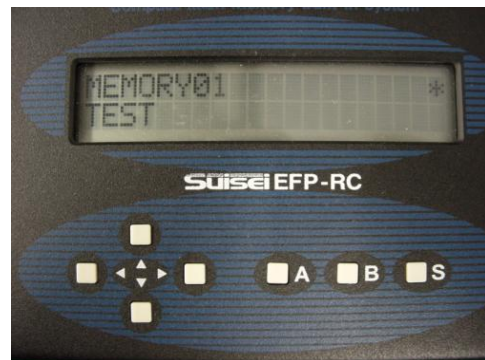


図 5.11 ショートカット実行確認画面

③ スクリプトの優先選択実行

- ・前項で” スクリプト．PBT” ファイルを表示した状態で $\boxed{\rightarrow}$ キーを押すと、グループ 名称の右に” *” マークが付きます。
- ・その状態で $\boxed{S}$ キーを押して実行させると、最後の実行状態として記憶されます。
- ・次の電源投入メニューで $\boxed{S}$ キーを押すと先に実行された” スクリプト．PBT” が優先状態となり、再度 $\boxed{S}$ キーが押されるとその優先” スクリプト．PBT” が実行されます。
- ・そのスクリプト実行終了後は、エラーが発生しない限り $\boxed{S}$ キーで再実行が可能です。
（ユーザグループは操作で 01 から 99 まで設定できます。メニュー時の $\boxed{B}$ キー操作参照）

5. 各マイクロコンピュータについての注意点

フラッシュROMのブロックやIDコード、QzROMのプロテクトビット等について説明します。

5.1 フラッシュメモリー (ND、Dinor型)

5.1.1 ブロック消去についてアドレス指定は、ブロック最終の偶数アドレスにしてください。

C000 CFFF	D : ブロック	E, CFFE, 1 (「,0」はロックビット有効、「,1」はロックビット無効)
D000 DFFF	C : ブロック	E, DFFE, 1
E000 EFFF	B : ブロック	E, EFFE, 1
F000 FFFF	A : ブロック	E, FFFE, 1

5.1.2 ID 領域 (マイコンにより異なる) にデータを書き込むと、書込まれたコードが ID コードとなります。

ID コードに設定する値は、この領域に書込まれた値になります。

参考 : M16C/62P ID 領域書込みデータ

アドレス	FFFD	FFFE	FFFF	FFFD	FFFE	FFFF	属性
データ ASC	S	U	I	S	E	I	, 0
データ HEX	53	55	49	53	45	49	, 1

I, FFFD, SUISEIS, 0 ; ASC 形式

I, FFFD, 53554953454953, 1 ; HEX 形式

参考 2 : M3803xF ID 領域書込みデータ

アドレス	FFFD	FFFE	FFFF	FFFD	FFFE	FFFF	属性
データ ASC	S	U	I	S	E	I	, 0
データ HEX	53	55	49	53	45	49	, 1

I, FFFD, SUISEIS, 0 ; ASC 形式

I, FFFD, 53554953454953, 1 ; HEX 形式

5.2 QzROM

5.2.1 Qz マイコンには以下のような、特殊領域があります。(M37546G 例)

FFD4 FFD7	書込み禁止	特殊モードレジスタ	
FFD8 FFDA	書込み可	特殊モードデータ	
FFDB	最後に 1 回のみ 書込み可	プロテクト領域	Y コマンドで設定

EEP-RC 通常モード (1Byte 書き/t=9---16) では、この領域にも書込みを行いますので、スクリプト上でこの領域を外して分割書込みを行って下さい。(ブランク、ベリファイ、プログラム)

ブランク	プログラム	ベリファイ
B, c080, ffd3	p, main. hxx, c080, ffd3	V, main. hxx, c080, ffd3
B, ffd8, ffda	p, main. hxx, ffd8, ffda	V, main. hxx, ffd8, ffda
B, ffde, fffd	p, main. hxx, ffde, fffd	V, main. hxx, ffde, fffd

6. サンプルスクリプトファイル

ここではE F P－R Cでの書込みに必要なスクリプトファイル(拡張子.pbt)の参考例を紹介します。
各コマンドの詳細につきましては操作説明書をご覧ください。

6. 1 M 1 6 C / 6 2 P (M30624FGP)の場合

全領域に対してイレース、ブランク、プログラム、ベリファイ、リード、ロックビットを行う場合、
以下のような構成となります。

```
;MCU タイプをセット
t=02

;ID プロテクトを解除(プロテクトコード例: " SUISEIS" )
I, fffdf, SUISEIS, 0

;全領域をロックビット無効で消去
e,, 1

;消去が完了したか、ブランクチェック
b, c0000, fffff

;プログラムを書込む(ロックビット無効)
p, data. hwx, c0000, fffff, 1

;データが正常に書込みできたか、ベリファイチェック
v, data. hwx, c0000, fffff

;書込んだデータをリードする
r, read_data. hwx, c0000, fffff

;全ブロックのロックビットを有効にする。
k, cffff
k, dffff
k, effff
k, f7fff
k, f9fff
k, fbfff
k, fdfff
k, fefff
k, fffff
```

6. 2 Q z R O M (M37544G2A) の場合

全領域に対してブランク、プログラム、ベリファイ、リード、リードプロテクトを行う場合、以下のような構成となります。

```
;MCU タイプをセット (M37544G2A の場合 t=11)
t=11

;データが書かれていないか、ブランクチェック
b, e080, fffd

;プログラムを書込む
p, 7544Qz_data.hxw, e080, fffd

;データが正常に書き込みできたか、ベリファイチェック
v, 7544Qz_data.hxw, e080, fffd

;書込んだデータをリードする
r, 7544Qz_data_read.hxw, e080, fffd

;リードプロテクトコマンド実行。以降はいかなるコマンドも受け付けませんので、ご注意ください。
y
```

6. 3 R 8 C / T i n y (R5F212B) の場合

通信ボーレートを設定後、全領域に対してイレーズ、ブランク、プログラム、ベリファイを行う場合、以下のような構成となります。

```
;MCU タイプをセット
t=05

;通信ボーレート設定 (57600Bps)、このコマンドはR 8 C / T i n y のみ有効です。
;また本設定を行わない場合は規定値として 19200Bps が自動的に設定されます。
s=3

;ID プロテクトを解除
I, ffd, SUISEIS, 0

;全領域をロックビット有効で消去
e, , 0

;消去が完了したか、ブランクチェック
b, 4000, 13fff

;プログラムを書込む(ロックビット有効)
p, data.hxw, 4000, 13fff, 0

;データが正常に書き込みできたか、ベリファイチェック
v, data.hxw, 4000, 13fff
```

7. トラブルシューティング

ここではEFP-RCで発生するエラーの一部と、その対処法を紹介します。

エラーコード	原因	対処法
1210	Hxw ヘッダデータの値が合わない	HEX から Hxw への変換で Hxw File Type が正しいか確認をして下さい。 720 Series:4bitMCU 720 ファミリ 720 シリーズ用 4500 Series:4bitMCU 720 ファミリ 4500 シリーズ用 4Byte Mode:8bitMCU 740 ファミリ QzROM 4Byte モード用 8byte Mode:8bitMCU 740 ファミリ QzROM 8Byte モード用 Normal:上記以外、通常は Normal を選択してください。
2001	開始アドレスエラー	1)PBT ファイルの先頭アドレスと Hxw ファイルの先頭アドレスが一致していますか？ 2)Hxw data domain setting を Manual にし、Hxw のアドレスをスクリプトと一致させてください。 もしくは、スクリプトの先頭アドレスを Hxw ファイルに合わせてください。
2002	終了アドレスエラー	1)PBT ファイルの終了アドレスと Hxw ファイルの終了アドレスが一致していますか？ 2)Hxw data domain setting を Manual にし、Hxw のアドレスをスクリプトと一致させてください。 もしくは、スクリプトの終了アドレスを Hxw ファイルに合わせてください。
41xx	デバイスエラー	1)MCU の電源電圧が正常範囲内か確認してください。 2)MCU と EFP-RC の結線に問題ないか確認してください。 3)コネクタや IC ソケットを使用されている場合、接触不良を起こしている可能性があります。
4184	R8 MPU 通信タイムアウトエラー	R8C/Tiny MCU の場合通信ボーレートが設定できますが、ボーレートが高すぎる場合このエラーが発生します。 設定ボーレートを下げてください。
5000	プログラムエラー	1)MCU と EFP-RC の接続に問題ないか確認してください。 2)コネクタや IC ソケットを使用されている場合、接触不良を起こしている可能性があります。
5100	バリファイエラー	1) MCU と EFP-RC の接続に問題ないか確認してください。 2)バリファイエラーを起こした MCU に対してバリファイチェックのみを行い、数回に 1 度エラーが発生するようでしたら接触不良の可能性があります。 コネクタや IC ソケットを清掃してください。
5200	ブランクエラー	E,,0 のようにロックビット有効でイレーズしている場合はロックビット無効でイレーズを行ってください。
5600	リードプロテクトエラー	リードプロテクト後の QzROM に対しリードやブランクチェックを行った場合に発生します。 リードプロテクト有効後、解除する方法はありません。 MCU を交換してください。
7005	指定したファイルが存在しない	プログラムやバリファイチェック時、スクリプトと同一フォルダ上に指定した Hxw ファイルが存在しない時に発生します。

上記の対策を取ってもエラーが発生する場合、弊社サポート (mail:support@suisai.co.jp) までご連絡ください。